



Title	The Associations between Evacuation Status and Lifestyle-Related Diseases in Fukushima after the Great East Japan Earthquake: The Fukushima Health Management Survey
Author(s)	Sun, Zhichao
Citation	大阪大学, 2022, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/89536
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	孫 智超 SUN ZHICHAO
論文題名 Title	The Associations between Evacuation Status and Lifestyle-Related Diseases in Fukushima after the Great East Japan Earthquake: The Fukushima Health Management Survey (東日本大震災後の福島県住民の避難状況の変化と生活習慣病との関連：福島県県民健康調査)
論文内容の要旨	
〔目 的(Purpose)〕 本研究は東日本大震災後の福島県民の避難状況と生活習慣病リスクとの関連について検討することを目的とした。	
〔方 法 (Methods) 〕 2011年～2012年度の健康診査を受診した20歳以上の男女89,571人対象者とし、帰還者群、避難継続群（避難解除区域）、避難継続群（帰還困難区域）、非避難群の4群に分けて、避難状態と高血糖症、高血圧症及び高脂血症の発症リスクとの関連をLogisticモデルで多変量調整のオッズ比を算出した、ベースライン時糖尿病、高血圧症及び高脂血症（脂質異常症）の既往歴がある者を除外し、2017年末まで追跡した。また、2017年のデータを利用して、空間的自己相関分析では疾患の空間的依存性を検定し、Hotspot分析により空間集積性を検定及び視覚化した。	
〔成 績(Results)〕 非避難群に比べて、避難継続群（帰還困難区域）では糖尿病、高血圧症及び高脂血症のオッズ比が有意に高かった。多変量調整したオッズ比（ORs）は、糖尿病で1.32（95% CI: 1.19-1.46）であり、高血圧症で1.15（1.06-1.25）であり、高脂血症で1.20（1.11-1.30）であった。帰還者群及び避難継続群（避難解除区域）では、糖尿病、高血圧症及び高脂血症との関連はみられなかった。Global Moran's法とHotspot分析によって福島県の上記疾患の有病率が福島市及び郡山市とその周囲区域に高い傾向を示された。	
〔総 括(Conclusion)〕 本研究により、帰還困難区域住民の継続的な予防対策が重要であることが示唆された。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 孫 智超 / SUN ZHICHAO			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	大阪大学教授	祖江 友寿
	副 査	大阪大学教授	服部 聡
	副 査	大阪大学教授	桑本 宏実

論文審査の結果の要旨

本研究は東日本大震災後の福島県住民の避難状況の変化と生活習慣病との関連性を分析した。2011年～2012年度の健康診査を受診した男女89,571人のうち、20歳以上の者を対象者とし、避難状況の変化を帰還者群、避難継続群（避難解除区域）、避難継続群（帰還困難区域）、非避難群の4群に分けた。避難状態と高血糖症、高血圧症及び高脂血症の発症リスクとの関連について、ロジスティクスモデルを用いてオッズ比及び95%信頼区間を算出した。また、2017年のデータを利用して、空間的自己相関分析により福島県の有病者分布の空間的依存性及び空間集積性を検定した。非避難者と比較して、避難継続群（帰還困難区域）では男女ともに糖尿病、高血圧症及び高脂血症の発症リスクが高かった。一方、帰還群及び避難継続群（避難解除区域）では、男女とも糖尿病、高血圧症及び高脂血症の発症リスクとの関連は認めなかった。また、福島県の糖尿病、高血圧症及び高脂血症の有病率が郡山市及び福島市とその周囲区域に高い傾向を示された。本研究により、帰還困難区域及び帰還住民の継続的な循環器疾患危険因子への予防対策が重要であることが示唆されことから学位に値するものと認める。